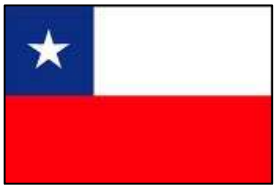
帰国報告

チリ共和国 サンチャゴ日本人学校



アンデスのふもと

前　チリ共和国サンチャゴ日本人学校　教諭
現　北海道教育大学附属釧路小学校　教諭　津田　裕匡

Ⅰ　チリ共和国の概況

1.　面積
756,000 平方キロメートル
（日本の約 2 倍）

2.　人口
1,711 万人（2010 年　世銀）

3.　首都
サンティアゴ

4.　民族
スペイン系 75%，その他の欧州系 20%，先住民系 5%

5.　言語
スペイン語

6.　宗教
カトリック（全人口の 88%）

7.　主要産業
鉱業，商業，農業，農産加工業

8.　総貿易額（2010 年　チリ中銀）
(1)輸出　710.2 億ドル
（前年比　32.2%増）
(2)輸入　589.5 億ドル（前年比　39%増）

9.　主要貿易品目
(1) 輸出　銅，モリブデン，木材・チップ，サケ・マス，メタノール，果物，魚粉
(2) 輸入　石油・石油製品，輸送機器，通信機器，金属製品，天然ガス，化学製品

10.　主要貿易相手国
(1) 輸出
中国，米国，日本，オランダ，韓国
(2) 輸入
米国，中国，ブラジル，アルゼンチン，韓国，ペルー

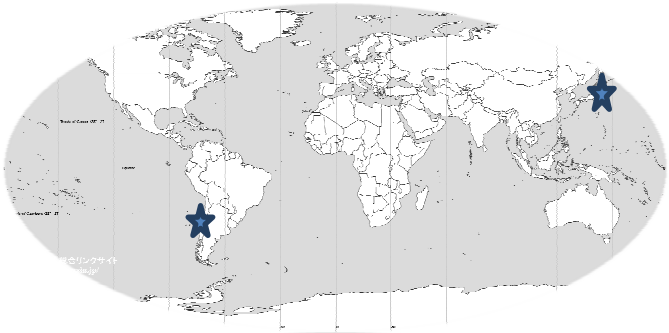
11.　対日貿易（2011 年）
(1)貿易額
輸出　7,944 億円
輸入　1,868 億円
(2)主要品目
輸出　銅鉱，太平洋サケ，モリブデン精鉱，冷凍マスフィレ，木材チップ，輸入　燃料油，乗用車，自動車用タイヤ，軽トラック，ダンプカー

12.　通貨　ペソ

13.　為替レート
1 米ドル＝501.3 ペソ（2012 年 1 月）

14.　在留邦人数
1,154 名，日系人は永住者（508 人）を含め 2,600 人程度と推定（2010 年 10 月現在）

15 .在日当該国人数
約 680 名（2010 年）
出典：外務省　各国・地域情勢
（2012 年 3 月現在）



チリといえば…

チリといえば,「地球の反対側」「細長い国」「サーモン」「銅が採れる」などが挙げられるであろうか。最近では，チリ大地震，コピアポ鉱山崩落事故が記憶に新しいであろうか。

チリは,南米南端の太平洋に面し,東西約 170km,南北約 4,300km と，南北に細長い国である。

北は，アタカマ砂漠。現在世界的に有名になった ALMA 計画が進められている場所である。アルマ望遠鏡の最高の解像力は 0.01 秒角（1 秒角は 1 度の 1/3600）程度なので，完成すると，すばる望遠鏡やハッブル宇宙望遠鏡に比べてもさらに 10 倍細かな構造を見分けることができることになる。

南は海を隔てすぐそこに南極大陸があり，森林と湖沼，フィヨルド，氷河など，地域によってとても変化に富んだ自然を垣間見ることができる。

太平洋を西に約 4,000km 進むとモアイ像で有名なイースター島がある。

南北に長い変化に富んだ国，この国土に約 1,700 万人の人々が暮らしており，スペイン系白人と，混血のメスティーソが人口の 95 パーセントを占めている。在留邦人は企業の駐在員とその家族を中心に約 1,100 人が居住しており，日系人が約 2,600 人いる。宗教は信仰の自由が保障されているが，カトリック教徒が絶対多数を占めている。

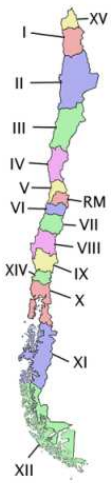
気候は,南北に長いため,一律には言えないが,首都のあるサンティアゴは，地中海性気候で，年間で雨が降る日は，１５日くらいである。四季があり，夏は３０度を超え，冬は，一番寒い朝で氷点下になるかならないかぐらいである。地中海性気候ということで，空気が非常に乾燥しており，ポテトチップスを数日置いておいても，湿気ることはない。

また，首都サンティアゴは，スモッグに悩まされている。地形や空気の流れ，車や燃料の排気ガス,二酸化炭素の問題もあり,特に冬の一時期は,空がどんよりと雲に包まれた感じとなり，スモッグ警報が発令され，車のナンバーによる運行規制,屋外での活動が制限させられる。許可車両以外を運転した場合は，高額な罰金を徴収されることになる。

チリの特産は銅製品，ラピスラズリ（青色の鉱石），そしてワインが挙げられる。豊かな自然と気候を利用した特産品といえる。特に，ワインはその味，安さから世界的に注目を浴び，世界でもチリ産のワインは有名になってきている。サーモンの養殖も盛んで，現在，日本で食べられている７割のサーモンがチリ産と言われている。この養殖技術を導入・指導したのは，日本人である。また，肉の国でもあり，牛肉が安く豊富である。アサードと呼ばれるバーベキューでは，炭でkg単位の肉をまるごと数時間かけ焼き，ワインとともに食するのが定番である。

チリの教育制度は初等教育が８年間で義務教育となっており，その上に中等教育が４年，高等教育（大学，専門学校）が４～７年の就学となっている。中等教育には普通中学と技術中学がある。前者は進学を目的とした学校で，後者は専門技術者の養成を目的としている。大学は国立，私立があり，全国統一試験を受験し，その結果を各大学・学部の合格点と見比べて検討し，進学先を決定する。大学のレベルは高く，社会からも高い評価を受けている。私立学校には名門校が多く，施設設備も充実している。

日本の小中学校の教育機関は，チリ国内にはサンチャゴ日本人学校しかなく，在留邦人の子女の多くが在籍している。ただし，わずかな数ではあるが現地校やインターナショナルスクールに通う日本人子女もいる。



Ⅱ　サンチャゴ日本人学校

1　サンチャゴ日本人学校の概要

（1）学校運営の構成

①　学校名

サンチャゴ日本人学校 Colegio Japones

②　学校所在地

La Dehesa 1340, LoBarnechea,
Santiago Chile

URL:　http://www.colegiojapones.cl

E-mail:　iej@entelchile.net

③　設置者　日本文化教育財団

Fundacion　Cultural y Educacional Japonesa

④　運営の主体

日本文化教育財団理事会

⑤　設立年月日

1982 年（昭和５７年）４月 20 日

よって，2011 年に開校 30 周年を迎え，お祝いする会，記念誌の作成，DVD の作成などを行い，その歴史を祝う節目となった。

⑥　設立の目的

サンチャゴ市内に在留する邦人子女のために日本の小学校及び中学校と同等の内容の授業を行うことを目的とする。日本の文部科学省から小学校及び中学校の課程と同等の課程を有する在外教育施設の認定を受けており，本校卒業生は日本の小・中学校卒業者と同じ資格を有する。

（2）施設

敷地面積	8,265.00 ㎡
校舎延面積	1,230.33 ㎡
普通教室	9 室
特別教室	5 室
講堂兼音楽室	155.52 ㎡
運動場面積	2,975.00 ㎡
校舎の構造	ブロック，平屋

（3）本校の教育目標

確かな学力と豊かな心，健やかな体をもった子どもの育成

《本校のスローガン》

●明るく，やさしく，たくましく

・さんさんと輝く太陽のように明るい子

・チャンスを生かし共に生きるやさしい子

・ゴールを目ざし頑張るたくましい子

（4）　経営方針

・　子どもが，行きたくなる学校

・　保護者が，行かせたくなる学校

・　職員も，行きたくなる学校

①　確かな学力をはぐくむ学習指導を展開する。

②　豊かな心をはぐくむ教育活動を推進する。

③　健やかな体をはぐくむ教育活動を推進する。

④　国際人としての資質をはぐくむ教育活動を推進する。

⑤　保護者や理事との連携を密にする。

（5）　重点努力目標

①　確かな学力をはぐくむために

ア　子どもにとって，わかる・できる・楽しい授業を目ざし，子どもの学習意欲を向上させる。

イ　基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り，これらを活用する力（思考力，判断力，表現力等）を育成する。

②　豊かな心をはぐくむために

ア　自分を大切にすると共に，他の人も大切にする心を育てる。

イ　自然や文化，人とのふれあいを通して，命の大切さや思いやりの心を育てる。

③　健やかな体をはぐくむために

ア　体育の授業や体育的行事などを充実させ，体力の向上を図る。

イ　健康教育を推進し，自らの健康を保持増進していく能力を養う。

④　国際人としての資質をはぐくむために

ア　英語とスペイン語によるコミュニケーション能力を育成する。

イ　現地校との交流を通して，チリの文化を知り，日本文化を見直す機会とする。

⑤　保護者や理事との連携を密にするために

ア　ＰＴＡ総会，ＰＴＡ役員会，理事会等，様々な機会において，それぞれの立場からの意見を聞き，より信頼される学校を目ざす。

イ　学校評価（アンケート）を定期的に実施し，教育活動の見直しと改善を図る。

（6）在籍児童生徒数（平成 24 年 4 月 1 日現在）

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小計	中1	中2	中3	中計	総計
人数	6	4	7	7	8	5	37	2	1	0	3	40

※一時は 80 名を超える在籍数の時代もあったが，現在は 40 人程度で推移している。

（7）　保護者負担経費等

（平成２４年４月１日現在）

入　　学金	財団会員	２５０　ＵＳＤ
	非会員	４００　ＵＳＤ
学　　債		５００　ＵＳＤ
授　業　料　（月額）		１３.７　ＵＦ
スクールバス（月額）		４.１３　ＵＦ
ＰＴＡ会費　（月額）		３,０００　ＰＥＳＯＳ
同窓会費（入会時）		５,０００　ＰＥＳＯＳ

２　特色のある教育活動について

（１）現地校との交流学習

サンチャゴ日本人学校は，現地インターナショナルスクール３校と提携し交流学習を行っている。それぞれの学校を往き来し，その活動場所を替えながら，定期的な交流を行っている。今までは，見学することが多かったが，次第に現地の授業に参加したり，教え合う活動を取り入れたりしながら，子どもたちの国際的視野の広がり，コミュニケーション能力の育成を目的として取り組んできた。はじめは，自分から話しかけることにためらっていた子も，伝え合う喜びを経験することにより，スペイン語と英語とジェスチャーを駆使し，コミュニケーションを図ることができるようになってくる。何より目の前で必要感に迫られた活動で，その経験を通して子どもたちの成長を感じることができる学習である。

（２）スペイン語の学習

スペイン語，英語ともに，現地スタッフによるオールイングリッシュ，オールエスパニョールの授業が週２時間行われている。（英語は小３より）やはり自分から相手に何かを伝えたいという意欲をもっている子がその言語を確実に習得していく様子が見られる。また，年間のプログラムにチリのお祭りと合わせ，スペイン語劇や，舞踊，歴史や食文化に触れるディエシオチョ祭りも設定している。

（３）さわやかタイム

毎朝，校庭で，「さわやかタイム」に取り組んでいる。全校生徒が少ないこともあり，全校で年間を通して様々な運動ができるようになっており，この時間は体育の学習ともリンクしている。縄跳び，持久走，ボール投げから始まり，一輪車，竹馬，雲梯，鉄棒，のぼり棒など進級制をとり，年間を通じてカードに自分のできるようになった技を記録していく。小学１年生から，その発達段階に合った運動を経験してきた児童は，一輪車，二重跳びなど全員ができるようになっていく。

（４）講演会の実施

首都サンチャゴ並びにチリ全域に，日本の企業・商社が，様々な分野で進出している。サケの養殖や，鉱山の開発，運輸，貿易，アタカマ ALMA 計画などである。日本人学校では，年間を通して社会見学とも結びつけ，月に一度の講演会を実施している。海外で勤務している貴重な経験や日本とのつながりについてもお話していただく機会は，子どもたちが将来において，世界に視野を広げていくきっかけになると考えている。また，スポーツ選手，芸術家，音楽家の方など世界で活躍されている方が，チリを訪問した時は，可能な限り授業をしていただくことにしており，ここで聞いたお話や授業を受けた経験は，子どもたちの貴重な財産となっている。

書家

紫舟氏を迎えて

３　創立３０周年記念事業

サンチャゴ日本人学校は，1982 年に創立され，昨年度創立 30 周年を迎えることになった。過去に在籍した児童生徒，卒業生 600 名余りは，現在世界中で活躍しており，再度連絡を取り合いながら，日本と反対側にチリにおいて，サンチャゴ日本人学校創立 30 周年という歴史の重みを再確認する年となった。

児童生徒とは，「日本人学校のよさをもう一度みんなで考える年」「みんなでたくさんの思い出をつくる年」と投げかけ，記念すべき１年となった。

～当時のおたよりから，サンチャゴ日本人学校 創立 30 周年をお祝いする会の様子を紹介します～

……

当日は 150 名を超える方々に参加して頂き，30 周年を記念すべく思い出の一日となりました。

第１部は，記念学習発表会として，30 周年にちなんだ５つの学年劇が発表されました。どの学年も趣向を凝らした発表で，子どもたちの生き生きとした姿が見られました。

第２部は，児童生徒代表スピーチ，財団理事長挨拶，クラブ発表と続きました。

続いての音楽発表では，低学年は日本の四季をメドレーで歌いました。かわいらしく，優しく丁寧に歌ってくれました。高学年の器楽合奏では「日本民謡メドレー」。長野県の木曽節，福島県の会津磐梯山，熊本県の五木の子守唄，北関東に伝わる八木節をメドレーで演奏しました。全校合唱は「校歌」「ハッピーバースディ」。日本を思い練習してきた演奏・歌声は，きっと日本にも届いたことでしょう。

午後からは，会場を中庭に移しました。PTA 会長の乾杯の後，PTA のみなさんに準備していただいたお昼をおいしく，楽しくいただきました。

その後，30 年にわたり，この学校を支え，見守り，育ててきた現地の職員の方々に理事長，児童生徒より記念の盾と記念品，花束が贈られました。

続いて記念植樹が行われました。今年は丹念に育て上げた 10 本の桜の苗木を校庭に植えることができました。今年の記念事業の目玉となった桜の植樹。10 年後，20 年後，その満開の桜の下に，子どもたちが集う日がくるといいですね。今既に花芽をつけている桜の木も多く，今から咲くのを楽しみにしています。

続いて，チレ・家庭科クラブ。このお祝いの会に向けて，一編み一編み，編みこんできたテヒードの作品発表でした。その作品の美しさには驚きの声が上がりました。このテヒードは，カルメン先生の思いと共に，サンチャゴ日本人学校の宝物として大切に引き継がれていくことでしょう。素敵な作品は，校内の壁に展示されています。

今回の記念誌の作成にあたり，歴代の日本教育財団理事長，旧職員，同窓生，世界中の先輩方より原稿をいただきました。この日本人学校が，長い歴史の中，諸先輩方の苦労と努力と熱い情熱に支えられ，着実に 30 年という歩みを進めてきたことを感じ，その努力に敬意を表します。

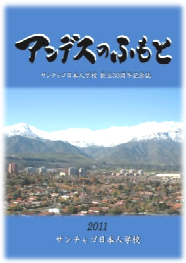
ただ今，記念 DVD の作成を進めております。記念誌の原稿，お祝いの会様子（写真・ビデオ）学校紹介ビデオ，過去の写真アルバムが入った記念 DVD が，日本，世界各地の同窓生，関係者の皆様に配られる予定です。

これからも日本人学校が，子どもたちの笑顔と魅力の溢れた学校であり続けますように。

……

記念マグカップ

記念 DVD
30 周年記念誌



参加者全員で撮影した記念写真です。
思い出の１枚となりました。

Ⅲ　チリの生活を通して学んだこと

1　チリで日本語を学習するチリ人との交流

～日本語教室　日本語指導研修会　チリ日本語弁論大会　漢字検定　への参加・運営を通して～

日本語教室修了式の様子より

1年目。チリ人の方で日本語を学習している生徒の日本語学習講座修了式に参加させていただいた。どの方も大学や仕事を終えてから，夜の教室に通っている方々で，その熱心さには驚かされた。修了証をもらう顔は喜びと自信に溢れ，真摯に日本語を学習するその姿勢に感銘を受けた。

チリのサンチャゴ大学では，日本語学科があり，そこでも日本語学習熱は非常に高く，あらゆる場面で，学生たちが日本に関わるイベントなどに参加している。

数回にわたり，日本語指導研修会にも参加させていただいた。日本人がチリ人に，また日本語を勉強したチリ人がチリ人に日本語を「いかに楽しくわかりやすく教えるか」という研修会であった。パワーポイントを使って教材を提示したり，生活と関わりの深いものを教材として工夫したり，熱心な内容の研修会であった。こういう方たちの努力と情熱が，日本とチリをつないでいると感じさせられた。

また，3年間，チリ日本語弁論大会にも質問者として参加させていただく機会を得た。その中でも日本の文化や習慣にとても興味関心が高いことがわかった。また，日本語を勉強し，自分考えを日本語で話す姿に，勉学に対する意欲とその努力に驚くばかりであった。地理的には，とても離れているが，ある意味とても近い国でもあると感じさせられた。

チリ日本語弁論大会の様子

日本人学校では，日本漢字検定協会の漢字検定を実施している。日本人学校の児童・生徒に混じってかなり多くのチリ人が受験している。例年の第3回目の検定では，約20名以上のチリ人が受験する。漢字検定の問題集なども入手しにくい中，1年生の漢字から練習を始め，この漢字検定合格を目標にして勉強している方が多い。緊張のため，手を奮わせながら，一画一画漢字を書いている姿は，目標を持って学習する手本となり，その中で一緒に受験する日本人学校の児童・生徒にも良い影響を与えていると感じる。

日本人学校での漢字検定の様子

「いつか日本に行ってみたい」と，言いながら，日本語を真摯に勉強し，日本に関わるイベントや学習の機会があると，進んで参加する。その楽しみながら学習を続けている姿に，日本とチリのつながりを強く感じさせられるとともに他の言語や文化を学ぶ姿勢に心を打たれた。

2　チリで書道に興味を持つチリ人との交流

～書道教室　書道の作品作りを通して～

はじめに現地大学の先生と連絡をとり，日本語を学習している学生を集めた書道教室に参加した。そこでは，現地の学生とたくさんの話をすることができ，日本語，日本の文化について大変興味を持っていることがわかった。書道の技術指導をする中で，チリ人との交流，また，日本の文字の美しさやおもしろさにも改めて気付く良い機会となった。

次に，日本文化祭に参加させていただく機会を得た。講師として書道教室（タジェール）を引き受けることになった。タジェールには，たくさんのチリ人の方が来られ非常に熱心に筆を運んでいた。若い方から年配の方まで，書いた文字にも喜びを覚えていたが，集中して真剣に筆を運び，机に向かった時間に安らぎを感じるとおっしゃった方が多く，改めて書道の奥深さを感じた。

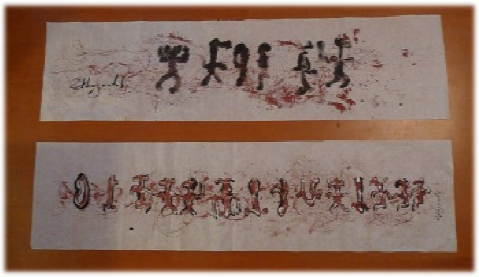
その後3年間にわたり，書道教室の指導に関わらせていただいた。どの生徒さんも非常に意欲的で，姿勢を正して集中し，真剣に筆を運ぶ様子から，改めて書道の持つ魅力にも気付かされた。書道教室はいつもたくさんの生徒で溢れ，次回を楽しみにする声も多く聞かれた。

日本の文化，書道など，様々なつながりを通して世界は確実につながっていることを感じた。

書道教室の様子

また，書道の作品作りにも取り組むことができた。日本で「現代国際書道展」という外国人をも対象にした書道展が開かれる話を聞き，チリから日本への出品を目標として作品づくりに取り組んだ。

書道に興味をもつチリ人を探し，最終的に画家のロベルトさんに出会った。彼は，書道に興味をもっていたが，作品を作るのは初めてであった。言葉でのコミュニケーションがうまくいかない中，実際に筆や道具を持ちながら，書道のもつ魅力や，線のひき方を話していくうちに絵と共通する発想や視点がたくさんあり，意欲的に作品作りを進めることになった。ロベルトさんは，画仙紙に書を書く前に，絵の具で背景の模様をつけたり，チリのイースター島の未解読文字である，「ロンゴロンゴ文字」を書いてみたりと，その豊かな発想に驚かされた。何度も自宅を訪問し，指導をしていく中で，ロベルトさん自身の発想を生かした作品を作ることができた。



イースター島のロンゴロンゴ文字をモチーフにした作品

また，グラフィックデザイナーの女性の方との出会いもあった。この方は，自分の作りたい作品のイメージをパソコンで表し，そのイメージに近づけるべく作品作りに励んだ。そのデザインは，アルファベットや漢字を組み合わせ独創的な作品となった。

その後，３年間にわたり，作品作りに取り組んだ。日本に送った作品は，審査の結果見事入賞を果たし，本人もとても喜んでいた。私が帰国しても，また作品作りに取り組むと意欲的である。これからも書道を通して交流を続けていきたい。

ロベルトさんの作品の一例

３　チリでの書道作品の発表

～　日本文化祭への出品，参加　サンチャゴ日本人学校書道クラブの発表を通して　～

また，チリ人に向けて日本の文化を紹介する日本文化作品展に，書道の作品を出品させていただく機会を得た。その作品展には，多くのチリ人が訪れ，作品を通してお話することもできた。日本語の漢字の表現とスペイン語の文字を入れた作品を作ったが，文字は違っていても表現の可能性は同様に広がることを感じさせられた。日本の伝統文化の一つである書道を通して，交流を図ることができたいい機会となった。

サンチャゴ日本人学校では書道クラブを創設し，作品作りに取り組んだ。今年度は開校 30 周年記念の年であり，この記念式典での発表に向けて作品づくりに取り組んだ。

チリにて，児童たちが書道を通してどんな表現ができるか，日本の文化を代表するひとつとしての書道をどう表現し，楽しむことができるかを考え，児童と創作活動に取り組んだ。

当日は，張り合わせた大きな画仙紙に，音楽に合わせて校歌を書き，児童とともに大満足の作品となった。来ていただいた日本人，チリの関係者の方にも大好評であった。

書道クラブの発表の様子とできあがった作品

日本語や日本文化，特に書道にかかわり貴重な体験をすることができた。書道を通して，たくさんのチリの方と交流をさせていただき，その中で私が身をもって様々な体験をしたことが，私の財産となった。改めて日本の文化のよさや美しさを再認識することができたと思う。

Ⅳ　おわりに

あっという間の３年間であった。

やはり，いまだ記憶に新しく，忘れられないのが，2010 年 2 月 28 日未明 3 時 34 分に起きたチリ地震の経験である。

家族５人で，就寝中であった。マンションに住んでいたため，左右に揺れる振れ幅がどんどん大きくなる感じがして，このまま…あともう少し揺れ幅が大きくなると，このマンションは途中から折れると心から思った。約２分間の激しい横揺れ。四つん這いになり，ひたすら揺れが収まるのを祈るような気持ちで待った。揺れが収まった後，すぐに子どもたちの手を引いて階段を駆け下りた。屋上の貯水タンクが倒れ，水が溢れているようで，階段は川のように水が流れている。すれ違う人，出会う人出会う人が，大丈夫と声を掛けあう中，１階まで無事避難。暗闇の中，たくさんの人が恐怖と不安の顔を浮かべる。全世帯停電となり，ところどころに非常灯が見えるが，町中が真っ暗な中，切れた電線がショートし，「バチバチッ」と音を立て，空が光っている不気味な光景は未だに忘れられない。

道路で夜明けを待って，何とか日本人学校へ。学校は，崩れはしなかったが，物が倒れたり，天井が落ちたり，ひどい状況だった。もし，授業中であったならば，大けがをしていただろう。

それから，電気，ガス，水道，インターネットが復旧するまで時間がかかったが，ラジオの情報をもとに過ごす。スーパーは食料品や電池を買い求める人であふれ，ちょっとした買い物でも２時間待ちの列となった。ガソリンスタンドも長蛇の列で，交通機関も依然麻痺したままだった。しかし，少しずつ生活をも落ち着きを戻し，日本人学校の生徒は無事登校を再開することができた。

後の情報によれば，M8.8 の大地震で，沿岸には 30mの津波が押し寄せたそうである。 その津波が約 22 時間後，日本に届いたのも，また驚きとその印象を強くした。日本からもたくさんのご心配と励ましの言葉をいただき感謝の気持ちで一杯であった。

その後，自分が担任する６年生の卒業式後の学活の時，M6 の余震が起き，全員で避難したことも忘れられない。

それから，約１年。2011 年３月 11 日。日本で東日本大震災が発生。多くの情報が入ってこない中，チリのテレビに映し出される映像も詳細まではわからず，心配と不安の時を過ごした。

それから，チリの日本人会を始め，在留日本人，日本企業，日本人学校，すべての日本人関係者が力を合わせて，被災された方応援する取り組みが始まった。日本と離れているからこそ，またその思いも強く，日本とチリのつながりを強く感じた毎日だった。

日本人学校でも，東日本大震災を考える集いを行ったり，チャリティコンサートに参加したり，今自分たちに何ができるか真剣に考えた。

東日本震災を考える集い

PRAY FOR JAPAN
への参加

チャリティコンサート
への参加

チリ政府主催の追悼式典
への参加

この３年間で地震のことから様々なことを子どもたちと考えることとなった。

３年間を振り返ると，不安なことや心配なこともたくさんあり，辛いことも多々あった。その中で，チリ人の方々に支えられ，同じ日本から派遣されている教員とその家族に支えられ，そして自分の家族に支えられた３年間であった。

スペイン語が通じず，本当に困った経験。子どもたちがスーパーで初めて「トイレはどこですか？」と聞き，通じた時の喜びの表情，涙ながらに見送ってくれたチリ人のみなさん。どれも瞼を閉じるとふと浮かんでくる場面である。

アンデス山脈に抱かれた優しい街，どこまでも抜けるような青空，アンデス山脈をそっと包む真っ白い雪，そして，温かい愉快なチリの人々。

すべてに方々と雄大な自然に感謝しつつ，これからの教育活動に生かしていきたいと思う。